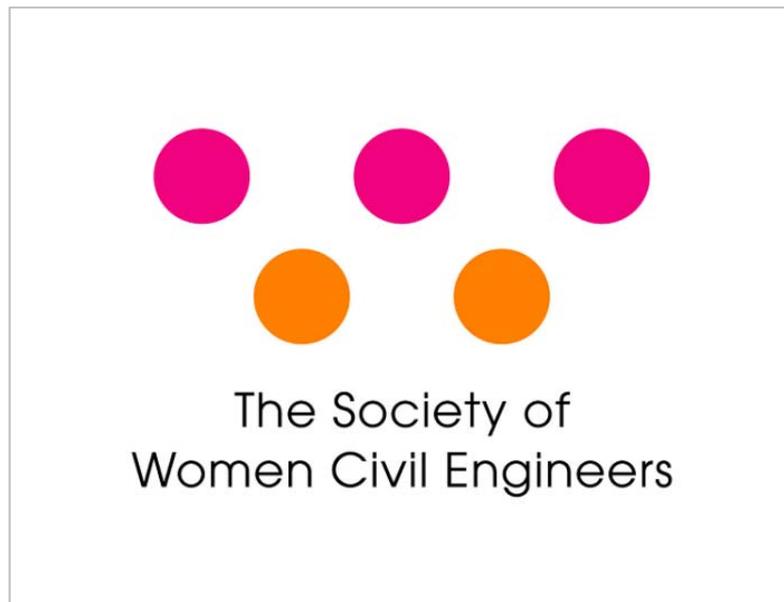


＜ 別 冊 ＞  
土木技術者女性の会 関連記事



土木技術者女性の会  
2014 年度「輪」総会特別号(第 56 号)

## 土木技術者女性の会 関連記事

### ★★ 目次 ★★

- 1 2014.03.31 千代田区男女共同参画センター情報誌 Vol.34,pp.4-5 MIW 通信「特集1 広がる仕事女性たちの挑戦」
  - 2 2014.04 札幌市市民まちづくり局男女共同参画室男女共同参画課「さっぽろ女子、仕事を語る。ー札幌の女性ロールモデル集」
  - 4 2014.04 東日本保証広報誌「EAST TIMES」2014 春号, pp.4-7「特集 のばす:才能を伸ばす、土木の領域広げる新しい分野で女性が活躍する可能性」
  - 8 2014.06.24 日刊建設工業新聞 p.2、10「各団体の総会:一般社団としてスタート/土木技術者女性の会」「土木技術者女性の会/阪神高速西船場 JCT 改築現場など見学」
  - 9 2014.06.30 日刊建設工業新聞 pp.2-3「座談会:女性が活躍できる現場づくりと魅力アップ」
  - 10 2014.07 平成 25 年版 国土交通白書 pp.116-117「コラム「ドボジョ」～Civil Engineering の世界で働く女性たち～」
  - 12 2014.07.01 日刊建設工業新聞 p.18「土木技術者女性の会「女性のチャレンジ賞」受賞/「ドボジョ」普及に貢献」
  - 12 2014.07.09 日刊建設経済新聞「土木技術者女性の会/「女性のチャレンジ賞」受賞」
  - 12 2014.07.01 北海道建設新聞「土木技術者女性の会が女性のチャレンジ賞に/内閣府「ドボジョ」の普及など評価」
  - 13 2014.07.24 新婦人しんぶん p.2「「ドボジョ」が話題! 女性たちの進出が多様な土木の未来を拓く」
  - 16 2014.08.25 日本経済新聞 p.16 建設産業戦略的広報推進協議会:【広告】「建設業などで座談会/もっと女性が活躍できる建設業へ」
  - 17 2014.10.15 日刊建設通信新聞 p.6 「東北で初、約 60 人参加/土木技術者女性の会東日本支部ら/仙台沿岸部復旧現場を見学」
  - 17 2014.10.15 日刊建設産業新聞 p.3「命を守るインフラ整備へ女性技術者のネットワーク充実を/東日本大震災復旧・復興工事を見学/延 100 人超の女性技術者が参加/土木学会東北・女性の会東日本支部」
  - 18 2014.10.16 日刊建設工業新聞「鳥取県土木学会中国/25 日にイメージアップシンポ」
  - 19 2014.11.11 日刊建設工業新聞 p.2「土木技術者女性の会/学生向けキャリアセミナー開く/仕事の魅力や働き方紹介」
  - 19 2014.11.11 日刊建設通信新聞 p.2「魅力と働き方 ヒント伝授 土木技術者女性の会東日本支部がセミナー」
- 20 その他の記事
- 20 TV 放映



# 土木技術者女性の会 関連記事

※各社の許可を得て掲載

2014/3/31 千代田区男女共同参画センター情報誌 Vol. 34, pp.4-5

MIW 通信「特集1 広がる仕事 女性たちの挑戦」

特集1



建設現場で。汚染土壌調査や土壌浄化工事に携わります。  
地下鉄工事現場で、作業員100名に女性の現場監督1人で頑張りました。

**建設会社の現場でどのような仕事をされているのですか？**

会社全体は、建築・土木工事等建設工事全般に関する企画、設計管理・施工などを行っています。現在は、建設現場での開発事業に関わり、建物を建設するにあたっての汚染土壌調査や土壌浄化工事などの環境に関わる仕事をしています。具体的には、施工計画に沿って現場で指示や判断をするほか、役所との折衝などもしています。

**これまで経験してきた仕事には、**

地下鉄渋谷駅の工事がありません。現場監督として、確実に施工計画を実施するにあたって、作業員の方々の指示や判断をしました。日勤の場合は朝8時の朝礼に始まり、夜7時過ぎまで現場で仕事をし、その後事務所に戻ってデスクワークをしていました。夜勤の場合は、その12時間逆のスケジュールでした。

渋谷の現場では、10代から70代までの男性の作業員約100名に対して、女性の現場監督は私1名でした。

その時、私は入社2年目。現場は経験豊富な年配の男性作業員が多かったので、指示は丁寧で、現場で知らないことは自分から聞くというオープンな態度で接するようになりました。仕事上で、女性だからとの軋轢はなかったと思います。

**男性がほとんどのなかで、女性ならではの意識はありますか？**

女性であることを意識しないでやっていたと思います。ただ、女性の傾向なのか、細かいところに気づきやすいことがあるかもしれません。このことは、安全を確認するのにとても有利だと感じています。たとえば、男性の筋力なら工具を持って昇れる仮設階段の高さでも、私ではむずかしいため一段の高さを低くするよう改善してもらいました。女性が目立たないことは男性に比べていいのではないかと提案したので、今は、会社の取り組みとして効率的な仕事の仕方を考えています。たとえば、フィールド・パッドの利用です。これは言ってみれば現場で使う「野帳」のiPad版です。これまでは、紙の設計図を現場に持ってきて、変更があれば現場作業が終わってから事務所に戻って書き替えていましたが、これを使うとその場で変更を書き留めることができ、効率化するだけでなく、その情報を関係者とすぐに共有できます。

**今の仕事を選んだきっかけは？**



なかね ゆり  
中根友理さん

私は兵庫県西宮市で育ち、小学3年生の時、阪神淡路大震災を経験しました。崩れた建物のがれきの山をショベルカーが取り除いたお陰で道ができ、配水車が入って水や食事が配られた時の感動が忘れられません。その時、私もこんな風に人の役に立ちたいと強く思いました。それが建設の世界で働きたいと思ったきっかけです。

そこで、大学では土木や都市デザインを学び、卒業後、建設の仕事をしたくとゼネコンを希望したので、大学の就職課では女性はどう受け取らないから、他の職種で受けるようにと勧められましたが、どうしても土木の仕事がしたいと強い思いを持って就職活動をしました。時代は女性を求めていると思います。

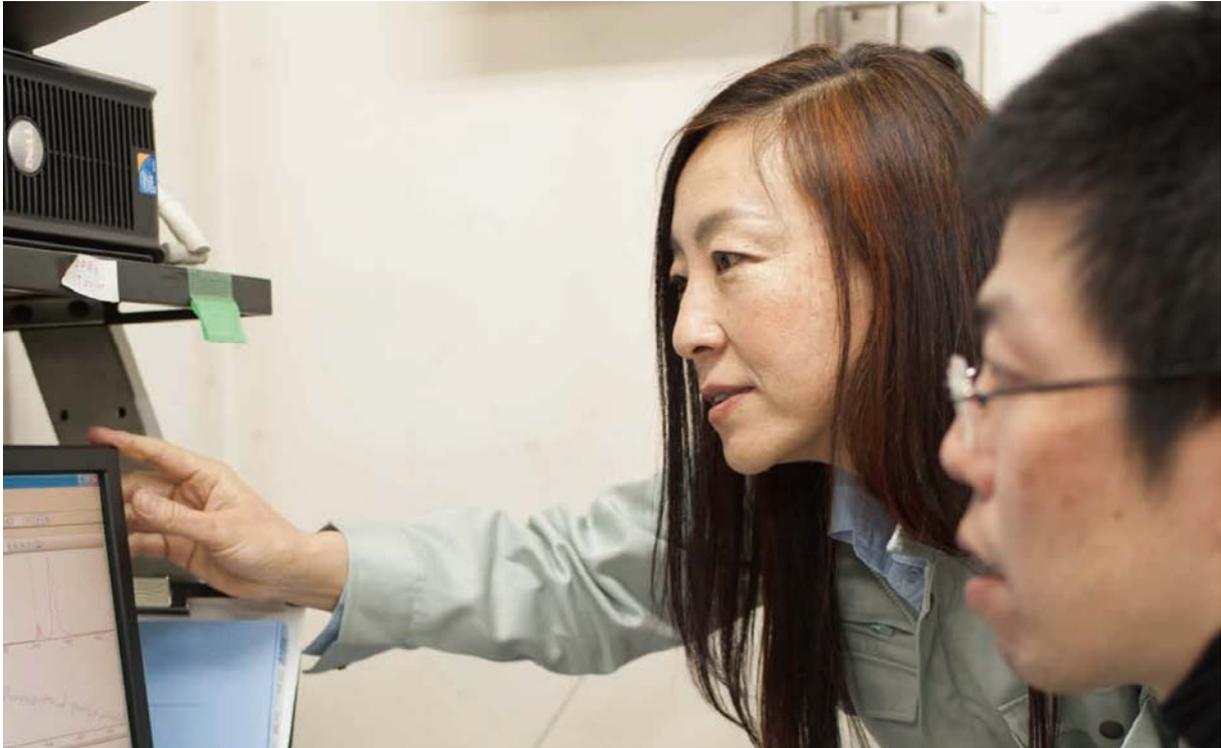
体力の面では、やはり男女の差はあると思いますが、その差は認めつつ、自分ができることを切り拓いていきたいと思っています。

これから先、子育てと仕事の両立については、まだ考えていないのが正直なところです。やりたいことがたくさんある。あの地震で心動かされたことを胸に、今の仕事を続けていきたいと思っています。

\*大成建設が開発した電子版野帳アプリケーション

## 土木技術者女性の会 関連記事

2014/4 札幌市市民まちづくり局男女共同参画室男女共同参画課「さっぽろ女子、仕事を語る。－札幌の女性ロールモデル集」



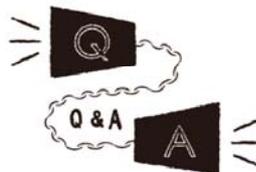
### 田原 さゆり Sayuri Tahara INTERVIEW 19

#### 苦しいときはだれかに助けを求めて よき理解者や協力者を得ることは大事

新卒で就職した会社は、2年程で出産を理由に退職。出産退職は自らの希望でしたが、その後、離婚によって子育てしながら生活のために働かざるを得なくなり、その時々々の生活スタイルに応じて転職を重ねました。

自然環境調査に長く従事しましたが、20年前の建設コンサルタント業界では女性技術者が極端に少なく、技術者としてなかなか認められませんでした。利点はすぐに顔をおぼえてもらえること。顧客との打ち合わせなど意志疎通が求められる場面では和やかな雰囲気づくりに努め、本音や余談を聞かせてもらえることもありました。

子育てや家事を経験したことによって段取りがうまくなり、時間内に手際よく仕事をこなせるようになったと思います。子育てしながら働くのは大変なこと。ひとりで乗り切れることは難しいので、苦しいときは助けを求めてみましょう。



#### PROFILE

1962年、札幌生まれ。大学では理学部化学科分析化学専攻、卒業後は東京の会社に就職し主に食品成分分析に従事。数回の転職を経ながら自然環境調査の実務および管理業務に長く携わる。現在ふたりの息子は27才と22才になり、子育てからは卒業。

#### 現在の仕事(活動)について

2013年9月に現在の会社に転職し、計量証明事業所として分析業務を行う部門のマネジメントに携わっています。水質、大気、騒音、振動、悪臭、廃棄物、土壌汚染、アスベストなどの調査・分析をつうじて生活環境の保全に寄与できると思っています。

#### プライベートの過ごし方

散歩、旅行、観劇、映画鑑賞、読書、友人との会食など。通勤時間をもっぱら読書。最近は(中学生程度の)英語の本を多読しています。



#### タイムスケジュール



終業は17:40だが残務整理や業務の勉強・確認などをしていると退社は19:00ごろ。夕食は家族団らんの大切なひととき



① 1996年「土木技術者女性の会総会」では、働き続ける気持ちが支えられた  
 ② 2002年同会の見学会。女性の坑内労働解禁前に多くの女性が工事中トンネルに入るのは画期的なことだった  
 ③ 2000年ごろ旭岳ロープウェイ姿見散策。大自然の中を散歩してリフレッシュ  
 ④ 1997年ごろ建設中の忠別ダムにて。行き先を決めずにドライブすることも多い

## 「身近な化学の仕事」で環境保全に寄与

### 「やりがい」だと感じられること

分析業務は民間からの受注が多いため、消費者のCS(顧客満足)がわかりやすいこと。担当部門のマネジメントでは、労働環境の改善やES(従業員満足)の向上に努めることにより、仲間の喜ぶ顔が直接見られる。若い世代が育っていく様子を見るのが楽しい。

### 忘れられないエピソード

保育所のお迎えて会議を中座し、子ども同伴で会議に戻ったこともあります。周囲の人の理解に助けられました。環境調査の現場では、なるべくトイレに行かなくて済むように前日から水分を控えたり、大の虫嫌いなのに草藪に入ったり、生きた魚を素手でつかめなかったり、けつこう泣きそうな日々でした。

### 仕事と家事の両立で工夫していること

優先順位を考え、その日のうちに最低限やらなければならないことだけこなす。頑張りすぎない、諦めも肝心。他者に助けを求めたり、ときにはお金で解決することも大切。子どもの病気などで突然会社に行けなくなっても最小限の迷惑で済むように、日頃からひとりで仕事を抱え込まないようにしておく。

### 女性が活動する上で不足していること

職場内保育所がほとんどない。育児休業のように、ある期間完全に仕事から離れるのではなく、時短や仕事量軽減により子育てしながら細々でも仕事を続けられる環境が必要。出産によって一時的に戦力ダウンしてしまう女性に対する社会的支援が足りない。地域社会における助け合いも足りない。

### 札幌を拠点に活動することについて

利便性が高い。知り合いが多い。雪さえ我慢すれば暮らしやすい気候である。

### 社会で女性が活躍することについて

女性(特に母親)の視点が男性中心の分野に加わることで、幅広いニーズに対応できるようになると思います。現状では重要な意志決定の場にいる女性の数が少なすぎますが、女性が活躍することによって改善できるはず。

### 今後の目標・展望など

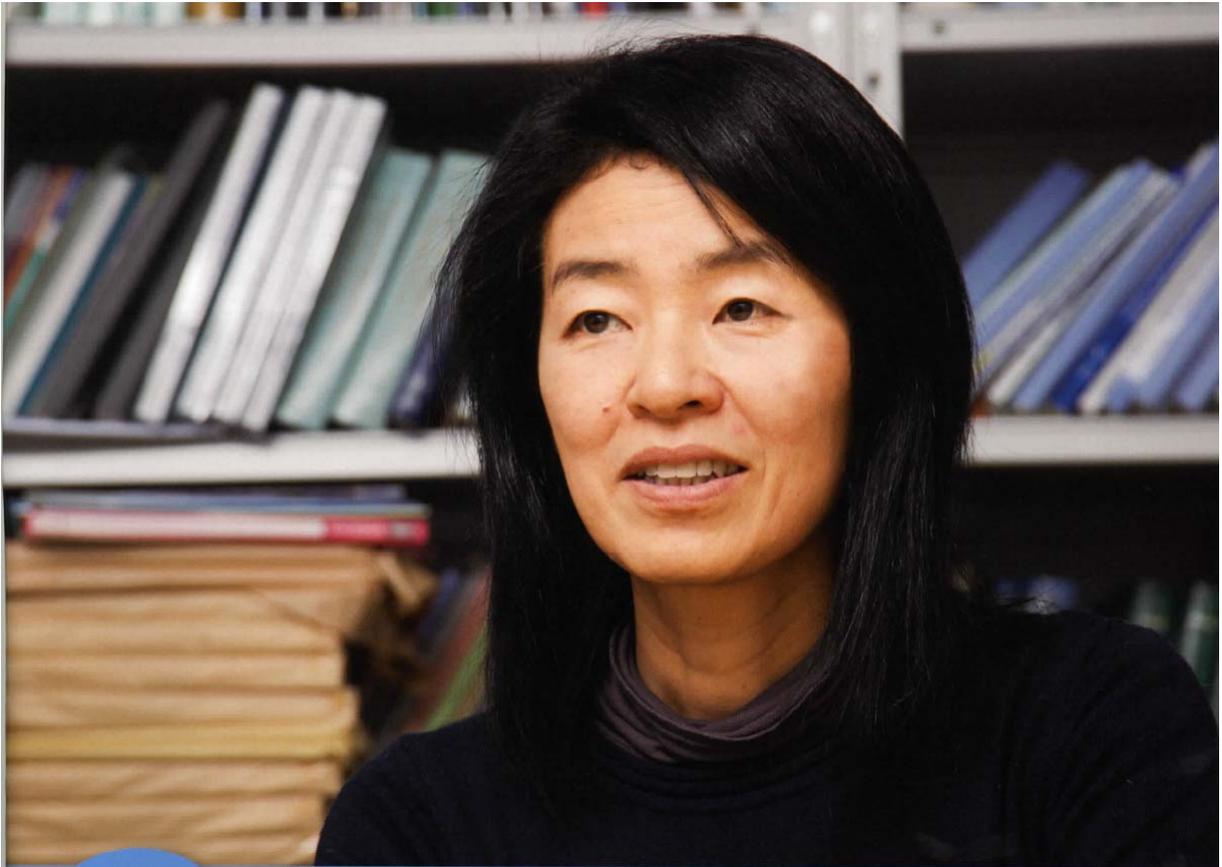
男女の別、年齢などにとらわれず、だれもがいきいきと働くことができる社会になってほしい。自分は今これからも成長しつつ、後進の育成に励みたい。今後女性が幅広く活躍できる世の中になるよう、女性にはもちろん男性にも、自分の経験から得たものを伝えていきたい。

### 活動を望む女性へのメッセージ

自分の目標を定めたらあきらめずに続けてほしい。ゆっくりでもいいし、人と比べる必要もない。努力は大切だけれど、たまには息抜きもして。肩間にしわ寄せで怖い顔しながら頑張るよりも、笑顔でいられる程度の余裕を持ち、人にも優しく。

2014/4 東日本保証広報誌「EAST TIMES」 2014 春号, pp.4-7.

「特集 のばす:才能を伸ばす、土木の領域広げる新しい分野で女性が活躍する可能性」



才能を伸ばす

特集「のばす」

土木の領域広げる新しい分野で  
女性が活躍する可能性

巻頭インタビュー

東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター教授

桑野 玲子氏

安倍政権も政策に掲げる「女性の活躍推進」とりわけ理学・工学系分野では、「リケジョ(理系女子)」「ドボジョ(土木系女子)」という言葉がもてはやされ、女性にラブコールが送られる。それは女性の社会進出にどの程度結び付いているのか。土木界での現状と展望を、女性技術者約200人で組織する土木技術者女性の会が会長を務める東京大学生産技術研究所教授の桑野玲子氏にお聞きした。

——大学に勤務される前は大手建設会社にお勤めでした。

桑野 1989年に入社し、設計部門に勤務していました。当時は大手建設会社に女性の総合職が1人いるか否かという時代です。女性を迎え入れるにしても、それまでその存在を想定してこなかった世界ですから、女性社員の扱いには困ったと思います。どう活用していくか、各社とも思い悩んでいたのではないのでしょうか。

土木界全体の人気が低迷していたため、そのイメージアップを図ろうと、女性の採用に積極的に乗り出した面もあろうかと思いますが、ものづくりの現場が学生に不人気で、ほかの分野に人材が流れてしまふ、それを何とか食い止めたという動機もあつたように思います。

——土木技術者女性の会との出会いはいつごろですか。

桑野 この会は約30年の歴史を持っています。土木学会誌での座談会を機に、横のネットワークを作ろうとその出席者が呼び掛け、それに約30人が応じて立ち上がった組織です。誘われたこともあつて、私は社会人になって間もなく入会しました。

### グローバル企業では多様な視点が不可欠

直接の動機は、社内には女性の技術者がほかにいないという点です。ロールモデルが身近に見当たらないのが悩みでした。

通常は、大企業でも中小企業でも、キャリアパスのお手本が身近にあります。「努力すれば、いつかはあの人のようになれる」と、手本にできる先輩がいるのです。

ところが当時の建設会社には、女性技術者としての先輩がいなかったので、お手本が見当たりません。愚痴をこぼす相手が欲しかったという気持ちもありましたが、社内にはロールモデルがなかったというのが、入会の一歩の動機です。

——翻って、いまの状況をどうご覧になりますか。

桑野 変わったと思います。建設会社を見ても、女性の採用は確実に進んでいます。子育て支援などの働きながら子どもを養育するための制度が整い、女性の社員数が増え、ロールモデルも徐々に生まれてきました。女性の社会進出を社会として応援するムードや体制も、1990年前後とは比べようもないほどです。

時代の変化を強く感じたのは、総合電機メーカーの方の話を聞いた時です。世界の市場を相手に企業活動を展開する企業だけに、組織として多様な視点を持つようにならないと世の中に置いていかれてしまう、というのです。女性の登用はグローバル化の中の生き残りを賭けた、必然ではないかと感じました。

土木界にしても、発注者は公共団体ですから、最終顧客は本来市民のはずです。当然、発注者である公共団体のほうばかりを向いて仕事するわけにいきません。もっと多様な視点が求められていくべきです。

時代が変わって、評価できる面は確かにあります。しかしほかの産業に比べると、まだ十分でない面があると思います。



「土木技術者女性の会」創立30周年記念(どぼく未来フォーラム 2012年6月)

### 土木技術者女性の会の目的

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

### 女性の活躍見られる 転動のない地方企業

桑野 土木界ならではの特殊性を感じることがありますか。現場勤務がある、労働時間

が長い、転勤がある、この3つが土木界の特徴です。土木系の学生のうち女性の占める割合は、大学で1割、高等専門学校で3割と言われていますが、これがそのまま土木界への就職に結び付くわけはありません。ほかの業界で職に就く人が相当数います。

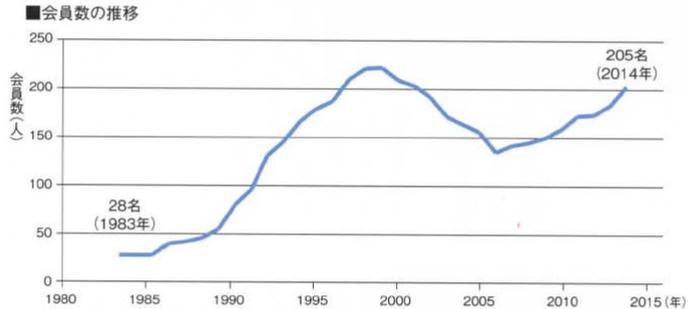
独身だったり子どもがいなかったりするならばともかく、子育て中の社員にとっては、時間拘束が長かったり夜勤があったりすると対応しづらい。とはいえ、職場で気を遣ってもらえると、それが返って重荷になる。周りに迷惑を掛けているのではないかと、負担に感じてしまうのです。

ただ一方で、将来に期待の持てそうな点もあります。まず、地方都市のほうが東京に比べダイバーシティ(多様性)を確保しやすい点です。

昨年7月、地盤工学会研究発表会でダイバーシティをテーマに特別セッションを開きました。驚いたのは、開催地の北陸では女性の登用が進んでいる点です。背景の一つは、人手不足が深刻という雇い入れる側の事情。もう一つは、地元企業で転勤の心配がないという働く側の事情もあるように感じました。

また、女性の職場復帰という点では、土木界はほかの業界に比べ

### 土木技術者女性の会会員の状況



有利ではないかと考えます。物事を考えるスパンが長く、IT業界ほどは技術の進展が早くないからです。復帰後に業界の変化に比較的ついていきやすいでしょう。

桑野 土木界では仕事の本身が変わりつつあります。現場のあり方が変わる中で、女性にとって仕事のしやすい環境に変わっていくことは考えられませんか。

土木技術者女性の会に入

### ■会員構成



たころ、環境、景観、造園など、境界領域に携わる方が多いと感じました。土木本流の領域では、マインオリティーだけになかなか活躍

できなかったからでしょう。

ところが、それらの領域はいまや、土木本流から決して遠くありません。新しい領域のバイオニアとして、女性技術者が自らの働く場所を開拓していった結果ではないでしょうか。

今後もしも同じような展開が考えられます。例えば維持管理のように、今後の重要な課題とみられる領域では、女性技術者が仕事を新しく開拓していくようになるのかもしれない。

**コミュニケーション  
女性の出番が増える**

——土木界で女性のほうが男性より適していると思われる分野はないものですか。

桑野 聞いた話によれば、動物学的には男女間では能力の差はない

が、適性の差はあるそうです。例えば、デザインや他人の気持ちを察することなどは、女性が得意とするところですよ。

だからこそ、現場説明会のように他人を相手にコミュニケーションを図る場合、その任に女性があたると、男性があたるのと、違いは生じそうです。女性だからとの理由でそういう場によく引っぱり出されるといふ声も耳にします。

現場付近の住民の方々とのコミュニケーションの必要性が説かれる中、そうした場面で女性の出番が増えていくことになるかもしれません。

——現場のイメージは変わってきていますか。

桑野 最近の現場は、ハイテクの塊ですから、高度化され緻密です。一般の方も目の当たりにすると、現場に対するイメージが変わるよ

うです。「現場」と言葉で聞くと、大型の建設重機が土を掘っている武骨なイメージを持たれてしまいがちですが、実際には、非常に整理されていて、ミリ単位の精度を追求する繊細さを持ち合わせています。ただ残念ながら、その現実がなかなか伝わりません。

——最後に、女性もつと土木界で働けるようになるには、なにが必要だとお考えですか。

桑野 かつては雇い入れる側が採用してあげるといふ雰囲気があったように思います。しかしいまは、女性が働くのが当たり前の中です。人材として必要とされ、戦力として評価されることが求められます。女性の活用を進めるには、それが不可欠です。

土木技術者一人一人が、男女関係なくそれぞれの能力を発揮すること、雇い入れる側と働く側と

が互いにWin・Winの関係を築くことができると切に願っています。



桑野 玲子(くわの れいこ)

【現職】  
東京大学 生産技術研究所 教授  
(土木技術者女性の会 会長)

【略歴】  
東京生まれ、1986年東京大学工学部土木工学科卒業、1988年同大学院修士課程修了。1989年大成建設入社、土木設計部勤務。1994年英国インペリアルカレッジ客員研究員、土木環境工学科博士課程。1999年博士号取得、帰国し東京大学大学院工学系研究科助手、専任講師。2001年独立行政法人土木研究所主任研究員。2006年東京大学生産技術研究所准教授を経て、2013年より現職。1990年土木技術者女性の会に入会、2009年より同会会長を務める。



「土木技術者女性の会」現場見学会

2014/6/24 日刊建設工業新聞 p.2、10

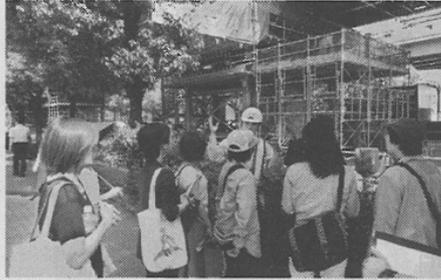
「各団体の総会：一般社団としてスタート／土木技術者女性の会」

「土木技術者女性の会／阪神高速西船場 JCT 改築現場など見学」

# 阪神高速西船場 JCT 改築現場など見学

土木分野に携わる産学官の女性技術者や学生が集まり、勉強会などを通じて技術者の質の向上、働きやすい土木界の環境づくりなどに取り組み「土木技術者女性の会」(会長＝桑野玲子

東京大学教授)は20日、大阪府津波・高潮ステーションと、阪神高速道路会社が進めている西船場ジャンクション改築事業の見学会を開き、会員相互の交流を深めた。阪神高速道路グループ



西船場 JCT 改築現場を視察



意見交換会

## 土木技術者女性の会

### 働きやすい職場環境づくりへ 会員相互の交流深める

の女性技術者を交えた情報交換会も行われ、女性が働きやすい職場環境づくりなどについて活発に意見を交わした。翌21日には、昨年11月の一般社団法人移行後、会員が一堂に会する初めての総会を大阪市中央区のドーンセンターで開いた。

現場見学会には全国から約30人が参加。最初に訪れた津波・高潮ステーション(大阪市西区)では、地震や津波のメカニズムや過去の災害経験を生かした対策などを学んだ。このあと、17年春の完成に向け、大阪市西区で工事が進む西船場ジャンクションありですか」「子育てと仕事を

両立する上での苦労はありますか」「育児休暇の間、不安はありますか」「育休明けの間、不安はありますか」など多くの質問が出された。阪神高速会社からは「男性社員でも1年間の育児休暇を取得するなど、男性、女性に関係なく誰もが働きやすい職場環境が整っている」などと説明。会員からは充実した制度に對して驚きの声も挙がった。

意見交換を終え、同会の村上育子(西日本支部長、鹿島)は、「学生や新しい会員も増え、当会も時代とともに、まだまだ二

現場見学会には全国から約30人が参加。最初に訪れた津波・高潮ステーション(大阪市西区)では、地震や津波のメカニズムや過去の災害経験を生かした対策などを学んだ。このあと、17年春の完成に向け、大阪市西区で工事が進む西船場ジャンクションありですか」「子育てと仕事を

両立する上での苦労はありますか」「育児休暇の間、不安はありますか」「育休明けの間、不安はありますか」など多くの質問が出された。阪神高速会社からは「男性社員でも1年間の育児休暇を取得するなど、男性、女性に関係なく誰もが働きやすい職場環境が整っている」などと説明。会員からは充実した制度に對して驚きの声も挙がった。

意見交換を終え、同会の村上育子(西日本支部長、鹿島)は、「学生や新しい会員も増え、当会も時代とともに、まだまだ二

### 各団体の総会

#### 一般社団としてスタート

土木技術者女性の会(桑野玲子会長)は21日、大阪市中央区のドーンセンターで第2回総会を開



桑野会長は「会として

いた。一般社団法人化後、は30年余りの歴史を刻み、第33回の総会となる。昨年の11月18日の土木の日に一般社団法人として新たなスタートを切った。法人化は目的ではなく手段。最近では土木技術者の女性への一般の関心も集まりつつある。私たちの活動に世の中が追いついてきたように感じる。

私たちが仕事の魅力を知ってもらい、さらに元気で楽しく働き続けることができる環境をつくるために活動するので、協力をお願いする」とあいさつした。写真。

14年度事業計画には、各支部で開催する現場見学会や女子学生との交流会などを盛り込んだ。

土木技術者女性の会 関連記事

2014/6/30 日刊建設工業新聞 pp.2-3

「座談会：女性が活躍できる現場づくりと魅力アップ」

(3) 第2部 2014年(平成26年)6月30日(月曜日) 日刊建設工業新聞 (第3欄使用部可)

女性が活躍できる現場づくりと魅力アップ



村上氏 (むらかみ・いく) 89年鹿島建設入社。4現場を総務など現場経理も経験。 岸田氏 (かした・こずえ) 06年からオリエンタルコンサルタンツに入社。海外業務も経験中。 高橋氏 (たかはし・ふみ) 97年建設技術研究所入社。まちづくり計画などを中心に国内外で活躍。

■岸田 誰かが働きやすい現場というのは女性が一番働きやすい職場だと思います。私の会社には、男性も育児休暇を取得する制度があり、1、2人となりに任じていますが、技術者の社員はあまりいません。僕も育児休暇をとって、短時間労働しているという方もいますが、一度離れたいという方もいます。再雇用制度もあります。なぜか、再雇用制度もありません。女性が働きやすい環境になるように...

■村上 誰かが働きやすい現場というのは、女性が働きやすい職場だと思います。私の会社には、男性も育児休暇を取得する制度があり、1、2人となりに任じていますが、技術者の社員はあまりいません。僕も育児休暇をとって、短時間労働しているという方もいますが、一度離れたいという方もいます。再雇用制度もあります。なぜか、再雇用制度もありません。女性が働きやすい環境になるように...

■高橋 今の現場では、事務所を建てる前から配属されていたりもあって、一人の女だけだと受け付けられないという状況も出ています。広い女子更衣室を用意してもらったりおかげで、快適に過ごしています。こういった環境は非常にありがたい。女性が働きやすい環境づくりは重要だと思います。

■池内 この問題を議論していくと、建設業界の問題として、社会全体の子育て後の問題が根拠にあるように思います。...

- 国土交通省近畿地方整備局長 池内 幸司氏
土木技術者女性の会西日本支部長 (鹿島建設関西支店) 村上 育子氏
オリエンタルコンサルタンツ関西支店技術一部担当次長 岸田 こずえ氏
建設技術研究所大阪本社道路・交通部班長 高橋 富美氏
大成建設関西支店土木部技術部技術室主任 鈴木 由美氏
奥村組西日本支社京都村野工事務所 島本 恵梨子氏
西松建設関西支店若出東トンネル出張所 菊池 紗帆氏

責任ある立場に女性の登用促進を

も、やはり社会全体で改めていかなければならない。...

■村上 責任ある立場に女性の登用促進を。...

再雇用制度など環境整備重要

最後、再雇用を受けたいという女性技術者の声がある。...

■池内 再雇用を受けたいという女性技術者の声がある。...

ドボジョの名前で認識アップを

■池内 ドボジョの名前で認識アップを。...

情報発信で魅力ある業界アピール

■池内 情報発信で魅力ある業界アピール。...

2014/7 平成 25 年版 国土交通白書 pp.116-117

「コラム「ドボジョ」～Civil Engineering の世界で働く女性たち～」

第3節 将来を見越す

I

第2章

これからの社会インフラのあり方

から生じると考えられるが、こうした資格が、業務上も有効に活用されるとともに、これらの資格を有することが社会的な評価につながる事が明らかとなれば、これらの資格の取得を希望し、社会インフラの維持管理に関わる仕事に就くことを希望する若者も増加すると考えられる。

また、以上のような人材確保の取組みに加えて、一人一人がより高いパフォーマンスを発揮できるよう個々の能力を高めていくことが不可欠であるとともに建設業全体でより効率的な生産システムの構築に努めていくことが必要である。

コラム

「ドボジョ」～Civil Engineering<sup>注1</sup>の世界で働く女性たち～

土木系の仕事や学問に携わっている「土木好きの女子」を指す呼び名、「ドボジョ」という言葉をご存じでしょうか。

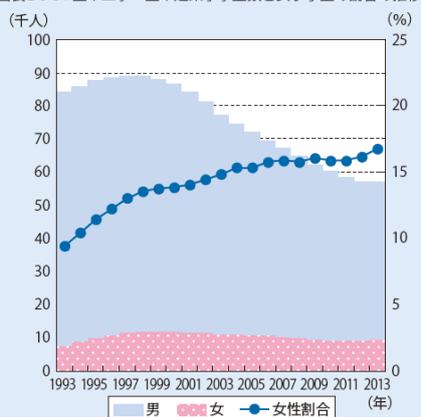
1982年、土木学会誌に「女性土木技術者登場」の特集が組まれて以降、女性の土木技術者への進出は拡大してきています。文部科学省の学校基本調査を見ると、大学の土木工学科・土木建築工学科で学ぶ学生に占める女性の割合は、1993年では9.7%でしたが、男子学生数が大幅な減少傾向であった一方、女子学生数は大きな変動がなかったこともあり、2013年には16.9%まで増加しました。また、大学卒業後に建築・土木・測量技術者として

就職した人のうち、女性が占める割合も徐々に高まってきています。

では、実際に女性の土木技術者はどのくらい存在するのでしょうか。「国勢調査」(2010年)によると、女性の土木・測量技術者数は5,870人(女性比率2.4%)とされており、土木学会企画委員会実施の「技術者動向調査」(2012年12月)によれば、その活躍の場は、官公庁、大学、建設会社、電力会社、コンサルタント業等様々な業種に広がっていると考えられます。

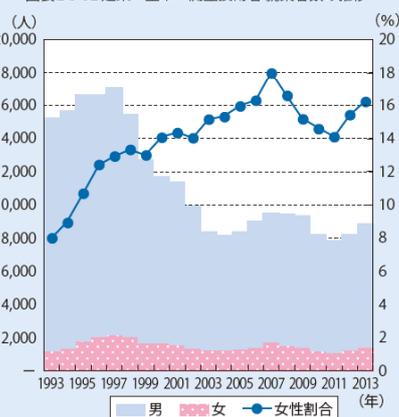
漫画でもヒロインとして取り上げられた「ドボジョ」。この言葉は、「土木系女子」だけ

図表2-3-51 土木工学・土木建築学学生数と女子学生の割合の推移



資料) 文部科学省「学校基本調査」より国土交通省作成

図表2-3-52 建築・土木・測量技術者 就業者数の推移



資料) 文部科学省「学校基本調査」より国土交通省作成

注1 「市民のための工学」あるいは「市民の文明的な暮らしのために、人間らしい環境を整えていく仕事」を意味する言葉。(公益社団法人 土木学会ウェブサイト <http://www.jsce.or.jp/> より)

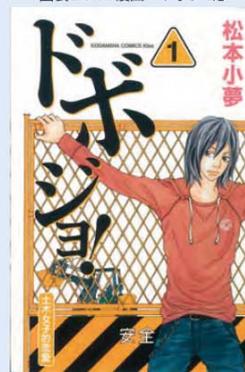
でなく、「作業服姿にヘルメットをかぶり、土木・建築の現場で働く女性たち」すべてを表す言葉として定着しつつあります。しかし、工事現場は通常「囲い」がなされているため、実際に作業をしている「ドボジョ」を目にする機会は少ないようです。そのため、これから土木の世界に入ろうと考える女性には、まだまだ不安も多くあります。1983年に発足した「土木技術者女性の会」<sup>注2</sup>では、これから「ドボジョ」を目指す女性のために、土木の仕事をイラストで紹介したり、先輩女性土木技術者からのメッセージを込めた「ロールモデル」を集めた冊子「Civil Engineerへの扉」を作成しています。また、女性土木技術者を応援する本は土木学会からも発行されています。

今後、ますます女性の活躍が広がっていくと予想されるなか、日本建設業連合会では女性技能労働者について5年以内に倍増を目指すことを目標にした、女性技能労働者活用のためのアクションプランを策定（2014年3月20日）し、会員各社に対して職場環境の整備

等に積極的に取り組むよう求めています。また、国土交通省においても、「もっと女性が活躍できる建設業」へ向けて官民を挙げた取り組みを進めていくこととしています。

多くの人の笑顔のために働く女性たち、彼女たち自身が輝く笑顔で働くことができる、そんな土木・建築の現場が今後増えていくことが期待されています。

図表2-3-53 漫画「ドボジョ」



(c) 松本小夢/講談社

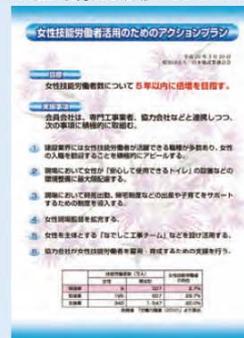
図表2-3-54 女性土木技術者を紹介する本



資料（一社）土木技術者女性の会

資料（公社）土木学会

図表2-3-55 女性技能労働者活用のためのアクションプラン



資料（一社）日本建設業連合会

注2 2013年11月18日に「一般社団法人土木技術者女性の会」となりました。

<女性のチャレンジ賞に関する記事>

2014/7/1 日刊建設工業新聞 p.18

「土木技術者女性の会「女性のチャレンジ賞」受賞／「ドボジョ」普及に貢献



2014/7/9 建設経済新聞

「土木技術者女性の会／「女性のチャレンジ賞」受賞

2014/7/1 北海道建設新聞

「土木技術者女性の会が女性のチャレンジ賞に／内閣府／「ドボジョ」の普及など評価」

内閣府が主催する2014年度女性のチャレンジ賞に土木技術者女性の会(203人、桑野玲子会長)が選ばれた。土木業界で女性の活躍を支援している点や、ドボジョ(女性土木技術者)の普及に貢献した実績が高く評価された。田原さゆり北海道支部長は「30年ほどの地道で継続的な活動が、このような形で評価されたことは本当にうれしい」と喜んでいる。男女共同参画社会の実現に向けて、起業やNPO法人での活動、地域活動などに挑み、輝いていく女性個人や団体、グループを顕彰する。土木技術者女性の会は、女性技術者の質の向上と活動しやすい環境づくりのため、全国規模で総会や見学会、セミナーなどを開催。土木業界で働く女性技術者を励まし、知識や社会的評価向上などに取り組んでいる。最近では「ドボジョ」の認知にも大きく貢献している。受賞に当たっては、これまで裾野の広い活動が高く評価された。道支部の田原支部長は「土木分野でも一層、男女共同参画が進むよう貢献できればいい。個人的には「女性だけでなく男性も変わらなくては」という意識がもっと高まることを願っている」と話す。

14年度は同会のほか、チャレンジ賞に3個人、女性のチャレンジ支援賞に2団体、女性のチャレンジ特別部門賞に1個人、2団体が選ばれた。表彰式は、6月27日に東京都内で行われた。

### 土木技術者女性の会が女性のチャレンジ賞に

#### 内閣府「ドボジョ」普及など評価

## 土木技術者女性の会 「女性のチャレンジ賞」受賞

一般社団法人土木技術者女性の会(桑野玲子会長)は、このたび、内閣府が主催する「平成26年度女性のチャレンジ賞」を受賞した。この賞は、多くの国民が個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けてチャレンジすることによって輝いている女性個人、女性団体・グループ及びそのようなチャレンジを支援する団体・グループ等を顕彰するもの。受賞にあたっては、同会が男性社会であった土木分野において、女性土木技術者の質の向上と活動しやすい環境づくりを目的とした独立団体として創立し、全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムなどを通じて、女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供している。最近では「ドボジョ」の社会的認知拡大に大きく貢献している。

年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供すると共に、「ドボジョ」の社会的認知・普及に貢献してきた実績が高い評価を得た。先頃、国交省でも直轄工事を対象に、女性技術者の登用を促すモデル工事を今夏から実施し、東北地方整備局では、女性技術者を現場に配置することを入札参加要件とすることを決めるなど、ますます女性技術者が求められる環境の充実が進む。



2014年7月24日

「ドボジョ（土木系女子）の活躍が話題」感想

【全体】

- ・こんなにも力強く、たしかな生き方をしてみたかった。これからの女性の生き方として期待します。(埼玉)
- ・ドボジョって一体何かと思ったら、土建の作業に重視する女性たち、男の人でさえ過酷な職業なのにと頭が下がります。(兵庫)
- ・溶接が好きという横島桂子さん、土木技術者女性の会の活躍など素敵な女性の活躍は読者に勇気と励ましを与えるでしょう。嬉しくなります。(大阪)
- ・今の時代、本当にいろいろなところで女性が活躍していますね。本来、職業って男だから女だからこれ！という決め方ではないので、当然と言えば当然。その個人個人の資質や特技に合わせて選択されるものだと思います。(北海道)
- ・重労働の現場に女性が進出しているんだと感心しました。働く場所の広がりとともに不安な気分も残りました。男性の現場で働くという点で母性保護の環境とはほど遠いものと思うからです。自分の娘がと思うととても心配、けれどその現場を改善することは時代の流れにすなやかに対応していける土木業界の想像とイコールなのですね。がんばれドボジョ！（奈良）
- ・土木系や林業など女性の活躍が話題になっています。彼女たちが結婚して子育てしながらでも続けられる仕事になってほしいです。(埼玉)
- ・やはり男性だけ、女性だけの世界はせまくなるのですね。土木の世界に女性の視点が入れば、きっといままでに考えられない変化が生まれると期待できます。危険と隣り合わせでしょうから、もっと労災や賃金の面でも改善できるといいなと感じました。(千葉)
- ・ドボジョという言葉にビックリ。土木作業に女性というイメージがなかったので新鮮です。女性は男性に比べて力や体力がないので男性と同じ仕事をこなすのは大変、それでも女性の視点が入ることでプラスになることもあるのかな、がんばってほしいです。(愛知)
- ・女性がんばっていること、組織をつくっていることに感心しました。男性の中で、トイレも更衣室もな

い、換えていくのにはものすごくパワーも必要ですし、みなで支え合っているというのはすばらしいですね。

(北海道)

- ・現場で第一線で男性の多い職場で頑張っている女性はいらっしゃるんですね。男社会の中でなかなか厳しいと思いますが、すごいことだと思います。(静岡)
- ・現場での様々な葛藤があると思いますが、がんばっておられる姿が紹介されて、奮起させられました。彼女たちの進出が切り開く分野とその影響はすごく大きいと感じます。(愛知)
- ・土木系の子供がカッコいいですね。かつて男性の現場に女性たちも進出しているが、なかなか女性のための設備が整っていないのですね。(京都)
- ・今の時代、男だから女だからでなく、やりたい仕事について精一杯働くことが大切ですね。(神奈川)
- ・「ヨイトマケの唄」にでてくるように、土木化を卒業していない女性の土木作業も多くありました。知人の女性は70歳で溶接の仕事をしています。今でも各地の工場仕事をしている女性はめずらしくないと思います。そのあたりの実態も記事のなかにあればうれしかったです。(大阪)
- ・土木業界は女性を軽く見る世界とおもっていましたが、そこへ進出して行く若い女性、時代の進歩を感じます(埼玉)
- ・土木系女子のことをドボジョと呼ぶのを最近知りました。親戚の女性が今度土木関係に就職しました。女性だからって世の中360度に興味をもって「やりたい」が芽生えてもそのまま進んでいける世の中になってきているなと嬉しい気持ちです。若い人にどんどん領域を広げてほしいです。(京都)
- ・女性がいろんなところに進出はすばらしいですね。女性目線は男性と違って、いろんな世界に女性の目線が入ると世の中は変わると思います。(埼玉)
- ・ドボジョというのが新鮮に感じました。自分の身の回りにはいない存在なので、初めて知りました。女性はまだ数%の世界とのことですが、少しずつ女性が珍しがられなくなりつつあるということで、また記事になると面白いなと思いました。(北海道)
- ・土木女性技術者、興味深く読みました。私は外科系の医師です。整形外科は工具を使う力仕事で、作業環境も高さを合わせるための足代によって足場の悪い体制に始まり、手術機械も大きさが男性の手に合わせた

サイズで使いづらい等がありました。手術着も看護使用しかない、ロッカーもない…女性の整形外科医が増えてきている今やってきてよかったと思います。(山口)

#### 【1面】

・地上 600メートルの世界の空間を想像させてもらいました。横島さんファイト。

・溶接作業をしている可愛い女性の写真に注目しました。ご主人を亡くされて、現在40代とのこと。そんな苦勞を感じさせないほどチャーミングです。体力勝負な職業だけに、さまざまな悪条件を乗り越えてがんばっているのですね。まだまだ女性にとっては過酷な現場ではあるけれど、個人にとって“好き”や“能力がある”ことで性差による職業選択をしなくていい時代になりつつあるのだと感じました。(兵庫)

・ドボジョ、鉄骨工の横島さんスゴイ！いろいろネーミングするものですね。「レディース会」がんばってください。(滋賀)

・横島さんががんばることで後の女性も続くことができるので体を大切に頑張ってください。(静岡)

・横島さん、すばらしい時代の先駆者です。(東京)

・スカイツリーのてっぺんで仕事をしたなんてすごいですね。横島さん頑張ってくださいね(大阪60代)

・40代で未亡人になり、夫と一緒にされていた仕事とはいえ、横島さんの記事に励まされています。(大阪)

#### 【2面】

・桑野玲子さんのお話にとてもうれしくなります。テレビコマーシャルや雑誌では女を品物扱いし、スタイル、ファッション、飾ることのみ強調されている風潮、とても切なく思っていました。土木技術者の会を知り、とてもたのしく思います。陰ながら応援したいので、時々このような記事を載せてほしいと思っています。力強く働く女性は本当に美しくたのしいと思います。(埼玉)

・多様な役割を担って活動する女性土木技術者女性の会に限りない謝辞を送ります。(東京)

・土木分野での女性の活躍は明るく元気のでる話だ。「軍事技術の対極にある市民の技術」というのがとてもいい。(和歌山)

・桑野先生の話はとても勉強になりました。よく知らない世界なだけに、土木が軍事技術の対極にあること、インフラ、ライフライン環境整備、魅力的な仕事に女性が携わっている事に知的刺激をうけただけでなく、世の中が広く思えました。(大阪)



2014/8/25 日本経済新聞 p.16

建設産業戦略的広報推進協議会:【広告】「建設業などで座談会/もっと女性が活躍できる建設業へ」

企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局

広告

# 建設業 なでしこ座談会

安倍政権はアベノミクスの3本の矢のひとつ、成長戦略の中核に「女性が輝く日本の実現」を掲げている。男性の職業というイメージが強い建設業にあっても、それをものともせず働き、輝きを放つ女性の技術者や技能者は少なくない。とはいえ、女性の建設業就業者数はまだ全体の15%に不足。こうした中、国土交通省は建設業団体とともに、女性の技術者や技能者を5年以内に倍増する目標を掲げ、行動計画をまとめた。「もっと女性が活躍できる建設業」にするには何が必要か――。太田昭宏国土交通大臣を囲んで、建設業界の最前線で働く女性たちと志ある女子学生が話し合った。

## もっと女性が活躍できる建設業へ



左から、蒲田さん、橋本さん、太田大臣、福吉さん、荒井さん

**出席者**

国土交通大臣 太田 昭宏氏

国土交通省 建設政策課長 荒井由美子さん

国土交通省 建設政策課 入社10年目 福吉奈津子さん

国土交通省 建設政策課 入社10年目 橋本 麻未さん

国土交通省 建設政策課 入社10年目 蒲田 幸穂さん

土木・建築系女子学生 3名



太田氏

### 5年以内に倍増へ 官民挙げて行動

太田氏

#### 女性のチカラ

建設業は活躍する女性の力、可能性をどう評価しているか。建設業という男性の職業のイメージが強いですが、実際は女性が活躍できる環境が示されています。女性には、周囲のサポートを必要としないという強みがあります。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。



福吉さん



橋本さん

### 一人ひとりの意識改革を 周囲の理解と協力不可欠

荒井さん

福吉さん

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。

### もっと女性が活躍できる建設業行動計画 10のポイント

女性技術者・技能者を5年以内の倍増を目指す

- 1 建設業界を挙げて女性の更なる活躍を歓迎
- 2 業界団体や企業による数値目標の設定や、自主的な行動指針等の策定
- 3 教育現場（小・中・高・大学等）と連携した建設業の魅力ややりがいの発信
- 4 トイレや更衣室の設置など、女性も働きやすい現場をハード面で整備
- 5 長時間労働の削減や計画的な休暇取得など、女性も働きやすい現場をソフト面で整備
- 6 仕事と家庭の両立のための制度を積極的に導入・活用
- 7 女性を登用するモデル工事の実施や、女性を主体とするチームによる施工の好事例の創出や情報発信
- 8 女性も活用しやすい教育訓練の充実や、活躍する女性の表彰
- 9 総合的なポータルサイトにより情報を一元的に発信
- 10 女性の活躍を支える地域ネットワークの活動を支援



橋本さん



蒲田さん

### 社会貢献度の高い仕事 確実に形が残るのが魅力

蒲田さん

橋本さん

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。

建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。建設業は、女性が増えれば、現場の生産性が上がり、コスト削減にもつながります。女性ならではの視点で、新しいアイデアを生み出すことも期待されています。



女性の活躍する現場を視察する太田大臣



<西日本支部ふれあい土木展 2014 に関する記事>

2014/10/16 日刊建設工業新聞

「鳥取県土木学会中国 25 日にイメージアップシンポ」

### 鳥取県土木学会中国 25 日にイメージアップシンポ

鳥取県土木学会中国支部は25日、鳥取市扇町の県民ふれあい会館で土木イメージアップシンポジウム「土木が未来を支える」を、女性が語る生活を支える文化を築く土木をテーマとする。建設企業などで活躍する女性技術者が、土木建築が生活に身近で密着し、やりがいのある仕事であることなどを、女性や子どもにも分かりやすく語る。当日は「くらしを支える、まちをつくる土木の話」と題して、土木技術者女性の

### 女性技術者が講演・討論

会の村上育子西日本支部長（鹿島）と古谷祥恵西日本支部長（清水建設）が講演。引き続き、土木技術者女性の会会員の広野彩さん（大成建設）が「ドボジョの日々！鳥取県土木施工管理技士会の阿部香織さん（大山緑化建設）が「現場は楽しい！自分らしく働く」ということ、土木学会が100周年記念事業の一環として行った未来のT&Iコンテストのアイデア部門「土木遺産ツアー」も予定されている。

## 土木技術者女性の会 関連記事

〈東日本支部土木系女子学生のためのキャリアセミナーに関する記事〉

2014/11/11 日刊建設工業新聞 p.2

「土木技術者女性の会／学生向けキャリアセミナー開く／仕事の魅力や働き方紹介」

2014年11月11日 2面

文字サイズ 小 中 大 印刷 

土木技術者女性の会／学生向けキャリアセミナー開く／仕事の魅力や働き方紹介



土木技術者女性の会（桑野玲子会長）は8日、東京都渋谷区の東京ウィメンズプラザで「土木系女子学生のためのキャリアセミナー」を開いた＝写真。土木系学科を専攻する学生が十数人参加。会員が社会人の先輩として仕事の魅力や普段のライフスタイルを紹介し、学生の相談に乗った。

セミナーを主催した北原正代東日本支部長は冒頭、「就職して仕事をしていく中で、育児や病気などに向き合わないといけないこともある。セミナーが人生を豊かにするための一助になってほしい」とあいさつした。

セミナーでは、入社10年未満の女性技術者として、佐藤あすみさん（首都高速道路会社）、生野静香さん（ジオ・サーチ）、海野円さん（大成建設）の3人が仕事の魅力や働き方を紹介。その上で、少人数のグループに分かれて会員が学生の質問に直接答えた。

参加した学生は「土木の職場は女の人がどう仕事しているのかイメージがしにくい。実際の話を開く機会は少ないので良かった」と感想を話した。

記事ID：201411110206

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます

2014/11/11 日刊建設通信新聞 p.2

「魅力と働き方 ヒント伝授 土木技術者女性の会東日本支部がセミナー」

## 魅力と働き方 ヒント伝授

土木技術者女性の会東日本支部がセミナー

土木技術者女性の会東日本支部（北原正代支部長）は8日、東京都渋谷区の東京ウィメンズプラザで、「土木系女子学生のためのキャリアセミナー」を開いた＝写真。ゼネコン社員など社会人17人と学生11人が交流し、土木の先輩が将来の担い手に、仕事の魅力と働き方のヒントを伝授した。参加した大学院生は「実際に働いている方の話を聞く機会があまりないので、女性がどのように仕事をしているのかイメージがわかんなかったが、きょうは貴重な話が聞けた」と、最前線で働く先輩の言葉をしっかりと受け止めた。

冒頭、北原支部長は、「これから就職して仕事を覚えながら、育児などにも向き合うかもしれない。仕事、プライベートを含めて先輩方の話が生き方の一助になればと思う」とあいさつした＝写真。

引き続き、首都高速道路保全・交通部点検・保全計画課の佐藤あすみさん、ジオ・リサーチ減災事業部大阪事務所の生野静香さん、大成建設技術センターの海野円さんが、「先輩の1日」をテーマに、具体的な仕事内容や1日のスケジュールを時折り笑いを交えながら紹介した。



5班に分かれて実施したグループディスカッションでは、現場でのトイレ事情や、産後の復帰といった学生からの質問や相談に社会人が親身になってこたえた。

休憩後には、東日本旅客鉄道千葉支社企画室の小林千佳さんが「私のキャリアパス」をテーマに基調講演し、ワークライフバランスの事例や企業で働く女性を取り巻く状況などを説明した。

土木技術者女性の会（桑野玲子会長）は1983年に約30人で設立。2013年に一般社団法人化し、現在はゼネコン、コンサルタント、官公庁など約200人の会員がいる。「先輩方の話が、どういった方向に向かうかの道標になってくれれば」（北原支部長）という思いで約10年前から女子学生との交流会を始め、5年前から年に1回セミナーを開催している。



建設通信新聞

2014年11月11日 002面 01版 No.12

### その他の記事

- ◆ 2014/04 web 建設×女性 元祖ドボジョ！？ 土木も女性が支えます
- ◆ 2014/05/12 セメント新聞 識者にきく セメント・コンクリートのイメージ／歪曲イメージ、挽回余地大／コンクリートの印象向上を
- ◆ 2014/9/23 読売新聞 p.16「キャリアナビ／建設現場 活躍できる／家庭と両立配慮も」
- ◆ 2014/10/26 日本海新聞「“ドボジョ”活躍アピール 土木建設業イメージアップ 鳥取でシンポ」
- ◆ 2014/10/26 日刊建設産業新聞「創刊 65 周年記念 土木の魅力一層アピール 働きやすい環境づくり推進 長時間労働など課題解消を」
- ◆ 2014/10/29 web ホームズプレス「全国各地の “ドボジョ”で組織された「土木技術者女性の会」。会長にインタビュー！」
- ◆ 2014/11/18 日刊建設工業新聞9面 「「土木の日」特集／土木技術者女性の会会長インタビュー／女性土木技術者の情報共有・交流を促進／働きやすく魅力的な職場環境づくり推進／多様な人材つなぐ土木学会の役割に期待」

### TV 放映

- ◇ 2014/05/15 TBS テレビ「いっぷく！」:特集コーナーいっつく！ ガテン系の職場で輝く「ドボジョ」とは？、  
[http://www.tbs.co.jp/ippuku\\_tbs/corner/ittoku/20140515.html](http://www.tbs.co.jp/ippuku_tbs/corner/ittoku/20140515.html)
- ◇ 2014/09/12 TBS テレビ「いっぷく！」:特集コーナーいっつく！ ガテン系女子密着 PART2  
[http://www.tbs.co.jp/ippuku\\_tbs/corner/ittoku/20140714.html](http://www.tbs.co.jp/ippuku_tbs/corner/ittoku/20140714.html)
- ◇ 2014.09.12 BS 朝日「未来を拓く土木の力〜ドボジョの夢が明日を創る〜」  
<http://www.bs-asahi.co.jp/doboku/>

